

同窓会に春一番！ 女性同窓生初参加 - 50号記念号 -



在京古高同窓会会報
第50号
〒352-0031
新座市西堀2-17-37
在京古高同窓会事務局
☎・FAX (042) 494-1598
URL <http://www1.ttcn.ne.jp/~furuko>
Email skyoji@jcom.home.ne.jp

発行責任：曾根 研一
編集長：亀井 明
印刷：(株)ケーヨー

在京同窓会メモー

- ・会計年度は4-3月、年会費は一口2,000円です。
- ・会の健全運営のため、振替用紙が同封された方には、納入をお願い致します。
- ・次回会報第51号は2013年6月1日発行予定、原稿は常時受付。

同窓会史上初の若手女性同窓生参加と

素晴らしいチェンバロ演奏で盛り上がった定時総会

7月7日(土) 上野精養軒

7月7日(土) 上野精養軒で開催された平成24年度定時総会・懇親会については、在京古高同窓会会員の皆さんに、とても新鮮な嬉しいニュースを交えてお知らせすることになります。

提案された第1号から第5号の議案(4面参照)は全て承認されました。役員の一部変更は、大友正行副会長(昭33卒)が退任し、引き続き幹事で今後も協力をしていただきます。

監事は谷地森税氏(昭26卒)が退任し、大友文博氏(昭42卒)が就任しました。また、私・佐々木昭美(昭42卒)が幹事となりました。

大友文博氏は田尻の出身。東北大学経済学部、米国スタンフォード大学経営大学院卒。三菱重工(株)の社長室企画部長等を歴任後、移籍した関連会社の(株)菱友システム常務取締役・執行役員を務め、2011年に退職しました。

総会終了後、曾根麻矢子さん(曾根副会長の娘さん)のチェンバロ演奏を楽しみました。曾根さんは、ヨーロッパと日本で活躍する有名なチェンバロ奏者で、上野学園大学教授でもあります。素晴らしい音色に皆さん感動していました。チェンバロ演奏は初めての方も多く、曾根さんよりチェンバロを見せて頂き、説明に領いていました。心が豊かになり、ちょっとチェンバロの知識も得た素晴らしい時間に大感謝です。

同窓生の参加です。平成17年に男女共学に変わり、4年前から卒業生が生まれています。

懇親会では若手男女同窓生全員に一言挨拶をいただきました。孫のような若者男女の登場に、笑顔に包まれた写真撮影もあって盛り上がりました。

私も含め、男子高校として育った会員の皆様、時代の変化を実感しますね。

今回参加出来なかった皆様、次回お会いしましょう。平成25年度の総会は7月6日(土)に上野精養軒で開催予定です。

昭42年卒 佐々木昭美(総会議長)



開会の挨拶をする高橋会長

物故者への黙祷、本部同窓会新事務局長・工藤昭裕先生(昭49卒)の指揮による校歌斉唱に続いて、高橋俊裕会長の力強い挨拶が始まり、また、来賓の本部同窓会渡邊義之会長と志貴教頭から、昨今の故郷の様子や母校生徒の活躍を伺うことができ、母校との繋がりは本当に嬉しいことです。



曾根麻矢子さんのチェンバロ演奏



懇親会で大崎市のPR
山田寿子観光交流課長(古女出身)

何と言っても特筆すべき嬉しい新鮮な出来事は、古川高校卒業生で関東地区の大学・学校に在学する女性5名、男性9名が定時総会と懇親会に参加してくれた事です。在京古高同窓会史上初の若手女性



14名の若手男女同窓生



古高卒タカラジェンヌ「蓮つかさ」さんのお母さん 新山明美さんも古川から参加

お知らせ

第20回 旧古川市内四校関東同窓会「新年の集い」

【日時】平成25年1月26日(土)
11:00～総会
11:45～講演
元東北大学総長 阿部博之氏
演題：江沢民主席の東北大学訪問の教訓
- 「価値の多様化」のすすめ、
「郷土愛」と「ナショナルリズム」雑感-
12:45～15:00懇親会
ゲスト出演：フランクガッサー 上原絵未さん(予定)

【会場】上野精養軒
JR上野駅公園口から徒歩5分 電話 (3821-2181)

【会費】8,000円



【阿部博之氏 略歴】

(田尻小学校出身)

昭和34年 東北大学工学部卒
昭和34年 日本電気(株)入社(～昭和37)
昭和42年 東北大学大学院機械工学専攻修了
昭和43年 東北大学工学部助教授～教授
平成8年 東北大学総長(～平成14年)
平成24年 「瑞宝大綬章」受章



新年のご挨拶

会長 高橋 俊裕



なお、この総会の後にも田中草太君が幹事・役員会に出席し、今後の会のあり方などにつき積極的に提案をしていただいております。在京同窓会学生会部会でも立ち上げることが出来たら面白いと思っています。我が会にも新風とともに変化の気配が感じられます。

あけましておめでとうございます。蛍雪が皆様のお手元に届く頃は新しい政権が発足し、新年に向って華々しく希望を掲げていることと思います。確かな選択をされた同窓会の皆様は気分晴れやかに新春のお屠蘇を味わっておられることとお慶び申し上げます。

抱えた日本。この国の将来を危うくしない為に、私達もこれから幾度となくある機会に誤りなき選択をしていきたいと思っております。さて、昨年の7月7日の総会には首都圏の大学に通う男女学生が14名も参加していただきました。母校が男女共学になったことを実感できましたし、若い人々との交流が図れて、新鮮さを感じるものが出来ました。その一方で今年も又参加してくれらるか一抹の不安も覚えたものでした。65才以上の年配者が人口の25%を占める世界一の高齢者国家日本。会員の皆様にも同窓会を通じて、若人との積極的な交流にご参加いただき、これからの社会のあり方に大いに関心を高めていただきたいと思います。お願ひする次第です。

りませんが、世の中を変える潮流になるかもしれません。終わりに会員の皆様の本年のご多幸をお祈りして新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

古川高等学校校長 鈴木 悟



在京同窓会の皆様、新年明けましておめでとうございます。一昨年は、東日本大震災復興校舎改築の懸案がありました。皆様方からの物心両面のご支援をいただきまして、恙なく1年を過ごすことができました。

3月には、新卒業生有志の発案による「南校舎お別れ会」が、名物教師・同窓生150名以上を集めて盛大に開催されました。実行委員会を組織した卒業生たちを中心に、今年の在京同窓会・本部同窓会・関西同窓会に20名以上が参加させていただきました。先輩方の薫陶を得たようです。彼らには、さら星のような同窓生の皆様と相見えることで、近年の学生に不足がちと言われる学問に対する高い志、コミュニケーション能力、職業意識、深い人生観などが培われることを期待しています。ご指導よろしくお願ひします。さて、7月の在京同窓会総会には、大崎地区の入試説明会(本校主管)があり、欠席させてい

ただきました。と、言いますのは、今春より宮城県の高校入試制度が変わり、その周知が喫緊の課題だったからです。これまでの推薦入試・一般試験・2次募集のシステムが、前期試験・後期試験・2次試験になります。前期試験は、各校の推薦用件を満たせば中学校長の推薦なしに誰でも受験できます。

本校では、「本校への入学を強く志望し、将来の夢実現に向けて、本校入学後も意欲的に学習活動に取り組みとともに、生活面でも他の模範となることができ、かつ次の4つのいずれかの条件に該当していることを自己アピールできる生徒」とし、学業成績や生徒会活動・部活動の条件をつけましたが、中学校の評定平均値をあえて求めていません。これは、本校に入りたい、本校で自分を磨きたいという受験生の意思を第一条件としたからです。今春の入学生は、特に「古高に入りたい」という生徒がこれまで以上に増すものと期待しています。

10月には、在京同窓会の皆様に、ふるさと探訪で母校を訪ねていただきました。そのときは、南校舎は解体を終え、更地でしたが、今年12月の新校舎建設をめざし順調に進んでいます。多くの同窓生の皆さんを校長室にお招きし、薄茶でおもてなしをするのができ、私としても至福の時でした。私も、今後とも先輩方の胸に飛び込んでいけるような古高精神を体現した生徒の育成に努めて参ります。今年も、どうぞよろしくお願ひいたします。

平成24年度 定時総会出席者名簿 (敬称略)

〔来賓7名他〕 渡邊 義之 (同窓会会長 昭34卒 東大崎出身) 高橋 亨 (同窓会副会長 昭23卒 古川出身) 松谷 篤郎 (関西蛍雪会会長 昭40卒 古川出身) 志貴 一元 (教頭 会津若松出身) 工藤 昭裕 (同窓会事務局長 昭49卒 中新田出身) 山田 寿子 (市長代理=大崎市観光交流課長 昭48古女 岩出山出身) 新山 明美 (宝塚歌劇団「蓮つかさ」母堂)

〔会員55名〕 (カッコ内は出身地)

Table listing members and their birthplaces. Includes columns for member ID, name, and birthplace. Birthplaces include various locations like (古川), (東大崎), (中新田), (岩出山), etc.

本部同窓会事務局日より

新年のご挨拶

古川高校同窓会
会長 渡邊 義之



在京同窓会の皆様、新年おめでとうございます。年頭に当たり、皆様の益々のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。

また、常日頃より母校並びに同窓会に対し多大なるご支援・ご協力を賜り衷心より謝意を表します。お蔭様で母校の生徒諸君は、校長先生を初め、先生方の熱心な教育指導により、多方面にわたり見事な活躍をしておりますし、同窓会もどうか順調に活動を展開しております。このことは、偏ら皆様方のお力添えの賜物であり、心から御礼申し上げます。

さて、私も今年5度目となる恒例の「ふるさと探訪ツアー」に10月下旬参加させて頂きました。田尻の「さくらの湯」での懇親会には、美里町や地元田尻の同窓生が多数参加され、同窓の絆が一層強くなったと実感いたしました。

今回のツアーで一番大きな衝撃を受けたのは、訪問した大震災の大津波で被災した南三陸町にも当てられぬ惨状でした。南三陸町

の志津川は私が新任校長として赴任した地で、在任中は町の多くの方々から多大なるご支援・ご厚情を頂いたところであります。それ故、被災直後や、ツアーの前後にも何回か訪問しましたが、高台の高校から見る町は、風光明媚な被災前の面影は何一つなく荒涼たる状況でした。あたり前の生活が一瞬のうちに奪われ、私がお世話になった人情味豊かな多くの方々が人命を失い、町民の大多数が被災され、今なお復興の目途が立っていないことは、本当に心が痛みます。

今、我々日本人として問われているのは、被災された方々を孤立させず、継続的にいかに被災者に寄り添ってあげられるかだと思いますが、どうでしょうか。

終わりに、同窓会としてこれからも母校を支え、同窓生に共感される活動を工夫して参りますので、よろしくご支援下さることをお願いし、ご挨拶と致します。

近況報告

事務局長 工藤 昭裕



一昨年3月11日発生した東日本大震災から1年が経過し、復旧から復興へと一歩を踏み出した中で、本年度は例年通りの新年度をスタートさせることができました。

震災の影響は旧古川市内にも多くあり、建物や道路に多くの爪痕を残しました。それらも大分復旧し、比較的落ち着いた町並みに回復しつつあると見えます。

古川高校は、創立116年目（共学8年目）を迎えましたが、現在50年余り使用した普通教室の改築中です。生徒達は、管理校舎と仮設（プレハブ）校舎を行ったり来たりで不自由な生活を送っておりますが、日々文武両道に励んでおります。新しい校舎は平成25年末に完成の予定です。

さて、本校同窓会は創立102年目に入りました。本年度の本部総会は8月4日（土）に地元大崎市「芙蓉閣」にて、120名の参加者を迎え、盛大に開かれました。当日は震災による被害者を含めた物故者への黙祷、校歌斉唱から始まり、渡邊義之同窓会会長、志貴一元教頭からの挨拶の後、衆議院議員石山敬貴様、在京同窓会副会長曾根研一様からご祝辞を頂きました。

その後議案審議に移り、平成23年度の事業報告、決算報告、平成24年度の事業計画案及び予算案が承認され、平成23・24年度役員紹介を経て、総会は終了いたしました。尚、決算報告の中で、震災義援金の決算報告も行い、総額500万円を超える義援金をいただいたこと、古高生の被災者へ就学給付金を支給したことも承認されました。

また、午後2時40分からは記念公演が行われ、本校昭和47年・第24回卒で、仙台地方裁判所所長の田村幸一氏に、「裁判員裁判について」と題して、判りやすい裁判の

仕組み等を講演いただきました。

その後講演者を交えて記念撮影を行い、続いて行われた懇親会は大いに盛り上がりを見せた楽しい会となり、大成功のうちに本年度の総会を終了いたしました。

総会後の主な行事としては、10月25日・26日の両日に渡って「ふるさと探訪ツアー2012」が在京同窓会役員の皆様の尽力で開催されました。

今回は、平泉（中尊寺・毛越寺）と震災被災地巡礼として南三陸町訪問し、登米町の歴史を探索しました。

懇親会には30名を超える参加者があり、夜遅くまで語り、大いに盛り上がりました。

今後とも同窓会活動に変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



平成24年度 宮城県古川高等学校同窓会総会 平成24年8月4日 於 芙蓉閣

高橋昭彦 (昭和53年卒)

ライフプラン・コンサルタント
「法人向け」及び「個人向け」生命保険を取り扱っております。生命保険について相談したい方がいらっしゃいましたら、私が日本全国対応いたします。是非、ご相談またはご紹介下さい。



ジブラルタ生命保険株式会社
東京第5エリア 千代田第七支部
〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町2-2-2
TEL: 03-3254-6701
携帯: 080-7015-4064
E-mail: a.takahashi@life-planners.net

情報処理のエキスパート 完成図書・デジタル化総合サポート

電子納品作成支援 おまかせください!

導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。

専任スタッフ・有資格	
CALS/ECインストラクター	4名
電子化ファイリング	5名
ファイリングデザイナー	2名
文書情報管理士	5名

代表取締役会長 早坂清吉 (昭和29年卒)



http://www.keyo.co.jp E-mail: info@keyo.co.jp

本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-1-6
☎ 03-3242-0191 FAX 03-3242-0167

<第1号議案> 平成23年度 活動報告

平成23年4月1日～平成24年3月31日

年月日	活動内容	場所
平成23年 4月10日(日)	「古高生及び母校への義援金」(東日本大震災)趣意書発送	信陵会館
5月21日(土)	会報「蛭雪47号」と総会案内発送(会員706名)	信陵会館
6月25日(土)	定時総会、懇親会 講演：伊藤康志 大崎市長 「大崎市震災状況とその後の復興について」	メルパルク東京
8月6日(土)	本部同窓会総会出席 (高橋会長、曾根副会長、佐々木事務局長)	大崎市「芙蓉閣」
10月22日(土)	会員交流会「江戸・東京探訪ツアー2011」 江戸城と激動の昭和史散策 (本部2名、在仙3名、在京15+同伴者1名、計21名出席)	皇居周辺 ～靖国神社
12月17日(土)	会報「蛭雪48号」及び四校合同新年会案内の発送(会員839名)	信陵会館
平成24年 1月28日(土)	「第19回 旧古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催 (幹事校・古高 85名、黎明 65名、古工 42名、古学 33名 四校来賓 4名、計229名出席)	上野精養軒
3月1日(木)	「東京蛭雪賞」授与、並びに古高卒業式出席(高橋会長)	古川高校

<第3号議案> 平成24年度 活動計画案

平成24年4月1日～平成25年3月31日

年月日	活動内容	場所
平成24年 5月26日(土)	会報「蛭雪49号」と総会案内発送(会員883名)	信陵会館
7月7日(土)	定時総会、懇親会 演奏：曾根麻矢子氏(チェンバロ)	上野精養軒
8月4日(土)	本部同窓会総会出席	大崎市「芙蓉閣」
10月25日(木)	会員交流会「ふるさと探訪ツアー2012」	古川・平泉・南三陸町
10月26日(金)	～世界遺産「平泉」と宮城の明治村「登米」を訪ねて～	南三陸町・登米・仙台
12月15日(土)	会報「蛭雪50号」及び四校合同新年会案内の発送	信陵会館
平成25年 1月26日(土)	「第20回四校合同新年会」開催 (幹事校・古川工業高校関東同窓会)	上野精養軒
3月1日(金)	「東京蛭雪賞」授与、並びに古高卒業式出席	古川高校

- ◎役員・幹事会：信陵会館
 第1回 H.23年 5月21日(土) 15名(総会運営他)
 第2回 H.23年10月1日(土) 15名
 (在京・本部総会報告、48号会報発行内容他)
 第3回 H.23年12月17日(土) 17名
 (「江戸・東京を楽しむ会」報告、四校新年会準備他)
 第4回 H.24年 3月10日(土) 16名
 (四校新年会報告、定時総会準備他)

- ◎四校合同幹事会：東京文化会館会議室他
 第1回 H.23年10月28日(金)
 第2回 H.23年12月13日(金)
 第3回 H.24年 1月20日(金)
 第4回 H.24年 2月25日(土)
 古高出席者：春田 佐藤(清) 曾根 岩崎 佐々木(恭)

- ◎役員・幹事会：
 定例は年間4回、その他必要事案により
 関係役員・幹事会を開催
 第1回定例5月26日開催：総会運営他
 第2回定例9月29日開催予定：総会報告他

- ◎四校合同幹事会：
 四校合同新年会(H25.1.26)にむけて、
 10月下旬から1月
 中旬までの間に3～4回開催する。
 古高出席者：曾根 佐々木(恭) 大友(文)

第2・4号議案 平成23年度決算／平成24年度予算

収入の部

科目	H23年度決算額	摘要	H24年度予算額
年会費	707,000	317名 353.5口 @2,000/365口	730,000
広告料	80,000	企業・個人広告	80,000
寄付・祝儀金	20,000	個人寄付	20,000
雑収入	115,706	剰余金他	50,000
収入計	922,706		880,000
前期繰越金	1,769,587		1,523,572
合計	2,692,293		2,403,572

支出の部

科目	金額	摘要	金額
会議費	107,777	役員・幹事会資料代他	120,000
印刷費	458,625	会報、案内状、封筒他	500,000
事務用品費	17,592	コピー・文具代他	14,000
事務所経費	60,100	信陵会館年間契約料他	60,000
通信費	192,403	電話、切手、はがき他	200,000
慶弔費	113,000	東京蛭雪賞他	70,000
旅費交通費	63,340	本部総会、卒業式出席旅費他	60,000
活動費	121,309	名簿広告他/義援金手数料他	100,000
雑費	34,575	年会費振込手数料他	40,000
支出計	1,168,721		1,164,000
次期繰越金	1,523,572		1,239,572
合計	2,692,293		2,403,572

会員による自由投稿

山歩き雑感(2)

一山は三次元・
山歩きは四次元の世界ー
昭30年卒 三塚 正志



平地の地図では、東西方向(X軸)と南北方向(Y軸)を指定すれば、目的地が決まる。この地図を二次元の地図と呼ぶことにする。平地では、二次元の地図で十分に目的が達成される。

山歩きでは、高さ(標高、軸)が必要になる。このように、山歩きの地図にはXYZの三方向(三次元)が必要になり、地形図と呼ばれている。

地形図を読むと、地形の状態すなわち土地の起伏(尾根や谷)の様子も知ることができる。したがって「山は三次元の世界」である。

山歩きで最も重要なことは、「確実に目的地に下山すること」である。このためには、常に地形図上(国土院発行の1/250000地形図)で自分の現在地を把握しておくことが必要である。

現在地の推測には、既に通過した明確な地点(地形図と対応のつく登山口、山頂、分岐点、鞍部など)からの経過時間と現在地の高度を調べることである。

経過時間は時計で、高度は高度計で測定する。所用時間とこの区間を歩いた速さ(地形と径の状況で異なる)から歩行距離を概算する。

地形図に高度と移動距離を記入すれば、ほぼ現在地を推測することができる。

このように、山歩きでは経過時間が重要な役割を果たす。山の三次元に時間(t)を加えると、四次元(XYZt)になる。したがって、山歩きは「四次元の世界」である。

次に、四次元について簡単に説明する。おでんの具の矩形のコンニャクは三次元である(長軸をX軸、短軸をY軸、厚さをZ軸とする)。

このコンニャクをおでん鍋に入ると、8個の角部が最も早く昇温し、中央部は最も遅く昇温する。汁の温度とコンニャク中央部の温度が等しくなれば、汁からコンニャクへの熱移動は終わる。

コンニャクを鍋に入れた瞬間を経過時間の原点(t=0)にすると、コンニャク内部の任意の場所の温度は、XYZtの関数として偏微分方程式で表される。

このように、コンニャクの鍋中での加熱と鍋外での冷却は、四次元の世界である。

この他にも日常生活に関係する四次元のものとして、電機の流れ、水(流体)の流れなどがある(熱・電気・流体の流れは同じ形の偏微分方程式で表現される)。

しかし、同じ四次元の世界でも、山歩きを微分方程式で表現することはできない。

熱は高温部から低温部へ、電気

は高電位部から低電位部へ、水は高所から低所へ流れる(自然状態でのこの逆の流れは存在しない)。登山者は高い方や低い方へ、水平方向へも進む。したがって、登山者の行動を微分方程式で表現することはできない。

地形図では、山のみちは、幅員1.5~3.0mは細い実線(多くは林道)で、幅員1.5未満は細い破線で表示されている。この細い破線が、「山のみち」いわゆる山径(さんげい)である。

平地の主要道路では、交差点や分岐点に道標があり、目的地の方向を知ることができる。高尾山、御岳山、御前山のような有名な山では、径の分岐点には道標が、迷いそうな所にはロープや道標が設置されている。

したがって、注意して歩けば「うちに迷う」ことはほとんどない。東京近郊の山では、山岳事故の防止のため、地元が都県や市町村が主な登山コースに上記のような対策を講じている。(写真参照)。



ところが、有名でなく、登山者も少ない山では、径の分岐点に道標のあることは少ない。また径が突然不明になったり、消えることもある。



展望の利かない山中で地形図を読んでも、全体的な地形と進むべき方向を推測することはできないが、分岐点でどちらの径に進むべきか、判断できないことがある。このときには、両方の径をそれぞれ5分間位歩けば、判断できることが多い。

しかし、それでも判断できない場合には、上記の明確な通過地点まで引き返すのが最良である。また径が消える場合にも、引き返すのが最良である。

このように山歩きでは、明確な地点の通過時刻と高度を記録しておくことが大切である。この記録は引き返すとき非常に役に立つ。したがって、山に入るときは時刻と高度を記録することを勧められる。最近登山用GPSも開発・発売されている。

佐藤 啓三 (S40年卒 中新田)

中小企業診断士
ISO (品質・環境) 主任審査員
エネルギー管理士

携帯 090-1438-9132
FAX 045-953-3894
E-mail: fzn04730@nifty.com
〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19

内科・小児科
長井内科

院長 医学博士
長井弘策

〔昭和31年卒(高8回)
古川高校同窓会副会長〕

〒989-6154
大崎市古川三日町1-3-25
TEL 0229 (91) 1020



した。校長室で、校長先生自らお茶を立て、茶会を催して暖かく歓迎して頂き、有難く感謝致しております。校内を案内して頂き、体育館は立派に建直され、新校舎も建設中でした。授業中の二つの教室を廊下より拝見しました。

平泉観光レストセンターでのお餅出しの昼食は、田舎での食生活を思い出して、懐かしさと同時に大変美味しく頂きました。

伊豆沼の変わった風景の見渡す限りハスの枯葉、水面は少々でした。

一泊旅行の主役6時より宴会が始まり、皆さんと笑顔で乾杯し、自己紹介後、校歌その他合唱致しました。



平泉 弁慶の記念碑前にて

人類の文化の力強さに心打たれた。一転して、今日は大津波の襲来で跡もなくなつた志津川を見ることになつて、大自然の猛威の前に、人間の力がなんと儂いものであるかを知ることになつた。

渡邊義之本部会長がマイクを握って、淡々と被災状況の解説を始めた。渡辺会長はこの志津川への思い入れが強い。平成4年か2年間、志津川高校に新任校長として赴任した町なのだ。「この辺は国道沿いで沢山の家があつたんですよ」。言われてみる窓越しには、土台のコンクリート破片の山があちこちに見えるだけ。リアス式の海岸の道はアツツダウが激しい。

山と海の狭間の国道沿いのわずかな平地に立つ家並みは、津波に襲われた所と、辛うじて難を逃れた所が繰り返して現れる。時折、渡辺会長のジョークもあるが誰も笑えなかった。窓越しに眼を凝らしていると、間近に迫る杉山の裾が計つたように一定の高さに枯れている。すでに切り倒された所もある。襲つてきた津波の水位を示しているのだ。今年5月に訪れた時には頑張つていた杉も、秋には塩害に負けて枯れてしまったのだろう。かなり海岸から離れていると思われるところで枯れているのは、津波が川を遡上したことを証明している。

やがてバスはかつての町の中心街に入ったが、瓦礫ばかりで何も無い。町の7割を海が持ち去ってしまったのだ。バスが公立志津川病院の前に差し込んだ時に、渡邊会長が「病院を見ろ」と言う。バスの窓越しに見上げると病院の4階までガラス窓がごとごとく破られていた。津波が5階建の公立病院の4階まで達し、多くの犠牲者を出したとの報道はきいていたが、これほどの高さかと身がすくむ思いであった。

海が持ち去った街・志津川

昭35年卒 相澤 信

抜けるような青空に恵まれ、宿泊地田尻の「ロマン館」を発つた一行のバスは、大崎耕土の田園風景と北上山系の単調な山道を抜けて行く。昨夜の懇親会の話題であちこちから笑い声が上つたりする。突然青い海が見えはじめた時「海だ」と歓声が上つたのもつかの間、みんな窓外の悲惨な景色に悲痛な声に変わった。

津波被災地である南三陸町の志津川を巡察したのは、ツアーの2日目の昼前だった。前日の平泉の豪華絢爛たる金色堂を参拝し、毛越寺の浄土庭園に遊んで藤原文化の往時の繁栄を偲び、

トルの津波がきます。早く高台に避難してください」津波到達の直前まで、冷静に防災無線放送で住民に避難を呼びかけ、自らも犠牲となつた遠藤未来さん(25歳)もこの庁舎の2階にいた。最後まで職務を全うした未来さんを悼み、命を救われた住民や避難民ばかりでなく、遠く県外からも訪れているところ。どの位の津波が町に襲来したのだろう。高台に避難していた人が撮影した映像の中に、この庁舎を襲う津波の様子が生々しく残っていた。

当時、3階建て(10m)の庁舎に町職員が30名ほど残つたのだそう。屋上で海の方向を見ている人達がそれである。ところが、アツという間に屋上の床を2mも越えたのである。辛うじて鉄塔によじ登つた3名が見えるだけになり、やがて波が引き始めて現れた屋上には10名の姿しか確認できない。結局、20名の職員が津波にさらわれて行方不明になつたのである。映像から志津川の津波は少なくとも12m以上であつたと推測される。

志津川を中心としている南三陸町の人口は当時17,666人、死亡・行方不明者数は現在838人である。その中の人が犠牲になつたのである。その中に町職員の41名が含まれる。

この町防災対策庁舎をめぐり、「解体」と異なる訴えが町職員の遺族から上がつて紛糾が続いている。是非「保存」してほしいと願うのだ。それにしても、想定外という言葉が飛びかつたのは1年7カ月前である。この志津川を始め、東日本大



南三陸町の街並

震災の被害は多数の死者を確認できぬまま、瓦礫の処分すらなかなか進まず時間ばかりが経過している。このような状況の中で、甚大な被害にもかかわらず、被災者はめげることなく復旧・復興に立ち向かつている。一行のバスは「南三陸さんさ商店街」と銘打つた復興市場に入った。買物客は見当たらない。「ここで土産に沢山買つて復興に協力してください」と誰かの大きな声が上がつた。海に近く、民家一つない場所にあつて、観光バス客相手に店を開いているのである。

バスを降りると一人の婦人が駆け寄り寄つてきて、渡邊会長と懐かしそうに話しこんでいる。志津川高校の元PTA副会長の奥さんだという。震災の「語り部」をしているという方だが、その元気のいいこと。

また、港町に暮らす人たちは気前がいい。渡邊会長は土産にサンマ1箱をもらつてバスに積み込んだ。被災者への同情の念で落ち込む私達を、復興市場の人達は逆に元気つけてくれる。このような人達がいるからきっとこの町は以前にもまして活気ある港町になるだろう、そうならなかったら理不尽であると思ひながら、次の訪問地の登米市に向かつた(古高同窓会副会長)

歌い楽しみと発見

昭39年卒 上野 正司

この度、第3回の故郷を訪問することになりましたが、不思議に私は3回とも参加できました。私はこのツアーは一つの奇跡だと思つています。と言いますのは、東京でこの話が出た時、この手の話は実現しない事が多く、どうせダメだろうとタカをくくつていました。何と門脇さん、佐々木さんらの実行力と執念に富んだ人達がやつてしまつた事は本当に驚きでした。しかも今回で3回目です。

10月25日古川駅に着き、母校を訪問するとなんと鈴木校長先生が、自らお茶を立てて下さいました。後で一行のご婦人から40年お茶をやっていますが、一番おもしろかったと言葉がありました。次の中尊寺、毛越寺は学生時代見たのとは違い、感慨深いものがありました。

た。帰り際に見た達谷翁(たつここのいわや)は特に良かった。その夜の泊まりは、田尻のさくら湯のロマン館でした。案内役の昭51年卒松ヶ根さんが田尻町時代に責任者として刻苦軌道に乗せ、黒字になっていると自慢しているところでした。



鈴木校長のお茶の歓迎

夜の宴会は地元昭36年卒の方々10人も加わり、大いに盛り上がりました。一応カンツォーネ歌手として演目に入っていた私は、カラオケで「サンタルチア」と「イヨマンテの夜」を歌い、ハエ博士の相澤先生からいたく褒めて頂き、それだけでなくも自画自賛男が益々得意になりました。渡邊会長の背広をカッパに見立てた踊りもなかなか色っぽかったです。

翌日のマイクロボスのなかでは、大震災の時の深刻な話もあり、一同感じ入りました。志津川に入りますと、渡邊会長の校長初任地という事で一人舞台になり、私が小さな川をサケが登っているのを見つけて騒ぐと「あれはナサケというサケです」などとダジャレを連発、若い娘達がいたら笑いこけるか、青ざめるかした事でしょう。それはともあれ、大津波の傷跡は、何とも言えないものがありました。

登米の訪問も驚きの連続でした。北上川水運で栄え、富の集つていた登米を彷彿とさせるものがありました。

会員通信

●「蛭雪」毎号懐かしく拝見。専ら読書三昧。(S22大首根良衛)

●蛭雪を楽しく愛読して居ります。これからもよろしくお願ひ致します。(S22諸岡久男)

●現在も月一回病院に行っています。診察と職員に講義(1時間)を行っています。病院新築中で7月完成、7階で長崎県島原地区の代表的な病院です。医学雑誌の編集を行い、ワクチンの開発等の手伝いをしていきます。(S22愛野記念病院 松本慶蔵)

●毎回会報で、高橋会長以下会員諸兄のご活躍ぶりとお母校の動向に接し、感慨ひとしおです。「ふるさと」(S24三浦澄龍)

●いろいろなスケジュールに追われて毎日を過ごしておりますが、年齢の割にはお元気ですと云われております。(S27氏家明朗)

●非常勤の勤務(月2〜3回の出社)の外、毎週月火の午前中、ボランティアの日本語教師として外国人に日本語を教えています。(S27菅原肇雄)

●とし相応?の健康体です。役員の方々に感謝しております。(S28中川裕雄)

●C.C.Compo。(ガスタービンブレード)の調査、加齢と共に文献理解も遅くなり進みます。(S29菊地 務)

●健康保持、ボケ防止を含め財団で元気にやっています。

●河北新報・岩瀬東京支社大の「仙台人と東京」は、史実と大変興味深い読物で参考になりました。この種の郷土にまつわる貴重な資料を今後も期待したい。(S29三浦憲一)

●縄文土器・埴輪などの野焼きを中心に陶芸をやっています。尺八は、親しい陶芸家の作品展で吹いています。(S29湯本良師)

●昨年(23年)の江戸・東京探訪ツアーでは、大変お世話になりました。3・11の大震災の被災地の早い復興を祈ります。(S30京極恒由)

●私の場合、出身地ではなく疎開先です。後期高齢者の仲間入りで両親共々です。せんで、宮城県に肉親もなく自宅もありませんので10年以上行っていません。縁は薄くなるばかりです。妻は岩出山出身です。(S30山中廣志)

●私は残り少ない人生を元氣なお蔭で運動をしたり、家庭菜園をしたり、囲碁を打ったり、外国旅行をしたりしています。昨年10月・11月にかけて、家内と旧ユーゴスラビア・セルビア・モンテネグロ・クロアチア・ボスニアヘルツェゴビナの5カ国を旅をしました。(S30横山 武)

●真面目に猛烈に仕事の頃、日曜大工用品を台北にある金物問屋から仕入れし、この度、その会長が逝去お線香あげにきました。台湾は変わりました。一日ゴミの収集に3回、カラス一羽もいません。きれいになりました。買物してレシートもらうとそれが全部宝くじに。国民に希望と期待が。(S33榊サキ商事 佐々木光一路)

●未だに工作機械の開発設計に携わっているが、若人の成長を阻害している感あり、引退すべき潮時到来。(S33東海精機 渡邊敏也)

●校舎取壊し(写真付き)有難うございました。年月の経過は、我が身の老化に重ねて納得です。古高の益々の発展を祈ります。(S34青沼行雄)

●久しぶりに5月21日山形蔵王温泉のバナソニック保養所に旧友6名と泊旅行に行きました。帰路は仙台駅発の列車でしたので大震災の跡を通行して東京へ戻りました。未だ未だ復興途上という感を強くしました。一日も早い復興を陰ながら祈る次第です。(S35今野正弘)

●脱原発が、やまびこの様に主張されていまして、いざ脱原発するにしても今後10〜20年のエネルギー対策は、原発を充分に利用・活用すべきと、原発の近くに住んで思っています。浜通りには全く活気がありません。(S38高坂クリニク 阿部重人)

●平成24年4月退職し定年生活に入り勤務からのストレスより解放される。今後は自らの老いの戦いに。精神的・肉体的負荷を絶えず掛けることが老化防止に不可欠と考え、有効な手段を考案中です。(S38今野文主)

●現役引退後2年目になりましたが地域や在京田尻会のボランティア・趣味の囲碁・将棋・社会見聞の旅行それに心の糧として読経会に参加し精を出しています。(S38高橋忠世)

●サラリーマン生活も今年で終了。良き時代に働き、生活出来ました。(S40手島秀明)

●5年前より定年によりブラリ老人です。(S40古内晋典)

●60歳より始めた極真空手の修行と読書の日々。古川に自宅があるので、そろそろ帰ろうかと考えております。(S41後藤健人)

●(独)農研機構・生研センターに勤めています。常磐線荒川沖駅発上野経由で大宮まで行き、そこからバスと歩きます。片道2時間半かかります。お陰で体が大きくなっての晩酌が、また格別です。(S41高橋秀之)

●定年退職後も、関連会社で役員をしておりましたが、第2の職場も卒業して、今は「毎日が日曜日」の生活に入りました。(S41早坂行雄)

●再任用最終年度(現在63歳。ふつうの教学科教員として「おんつあん」として教壇に立つております。諸兄の下支えがあつての同窓会として感謝しております。(S42横須賀市立田浦中三浦和夫)

●年輪増す毎に学び舎への想いのつらかりです。関係諸先輩のご尽力、心より感謝申し上げます。(S42至日本宇道連齋養塾代表 森谷里美)

●H23年10月にセントラル自動車(宮城大衡村)を退職しました。宮城工場建設のため2年4ヶ月宮城に単身で生活していました。(S44山内克夫)

●震災から1年半近く、東北の状況を聴きたいと、首都圏各地で講演する機会が多く、仕事の重みを感じています。(S45河北新報社東京支社 岩瀬昭典)

●在京同窓会総会・懇親会に参加した学生の皆さんから、以下の感想文が寄せられました。

●古高卒業時に「南校舎お別れ会」を企画した田中草太君(慶大)が、取りまとめてくれたものです。

●佐々木 晋太郎(青山学院大学)

●普段の生活はなかなか関わることのできない先輩方と交流するということ、とても貴重な体験となり、それと同時に改めて「縦の繋がり」の大切さ実感することができました。

●四倉 大地(埼玉大学)

●普通 大学生活を送っている中では、なかなか知る生活のできない、これから生き方の参考になるような話を色々聞くことができました。なかでも、先輩方の「経験」に基づいた話はとても面白く、参考になりました。ときに笑えるようなものでありました。この機会に得たことをあまり肩に力を入れ過ぎないように今後の大学生活に活かすことができたいと思います。

●青木 麻菜美(尚美学園大学)

●古川高校を卒業し、沢山の同窓生の皆さんの仲間入りしました。同窓会では、さすがと歴史ある古川高校、様々な年代の方々とお話ししました。人生の先輩であり、共通の学校の話題から、それぞれの近況まで本当に沢山の魅力的なお話をさせて頂きました。

●先輩方には大歓迎を受け、私たちのような若い世代の参加が古川高校同窓会の新たな活性化に繋がると思いました。これからもこのような機会を大事にして、積極的に参加したいと思えます。

●岩崎 智子(川口市立看護専門学校)

●今回の古高同窓会では卒業式以来久しぶりに同級生と話をすることができ、またOBの先輩方からたくさんの方々の将来のことについてのアドバイスをもらう機会ができて、本当に参加してよかったです。また機会があれば参加したいです。

●小川 美央奈(群馬医療福祉大学)

●同級生との再会や先輩方のお話を聞くことができて、よい経験になりました。今後は是非参加させて頂きたいです。ありがとうございました。

●千葉 奈々恵(桜の郷看護学校)

●高校時代話さず機会がなかった友達とも話さず過ぎて、そびえなにより、様々な場面で活躍していらつしやる先輩方からたくさんのお話をお聞きでき、有意義な時間を過ごすことができました。

●古高卒業生であることに、あらためて誇りを感じられたひと時でした。素敵な会をありがとうございました。

●林崎 玲奈(昭和大学医学部)

●大変貴重な体験をすることができました。曾根麻矢子さんのチェンバロ演奏や、社会で活躍している古高同窓生の皆様方との対談など、このような機会を設けて頂き、感謝しております。

●同窓生の方々に頂いた言葉に、有意義な学校生活を送りたいと感じました。

●富久世 啓寿(関東学院大学)

●自分としましては、ピアノに似た楽器の演奏がいつも印象に残りました。そしてお話しして食事の中で、古高という縁のある方々のお話聞いて良かったです。PS もう少し歳の近い先輩などあればいいのかなと思いました。

●浅沼 秀平(立教大学)

●初めにお話しを受けたときは正直緊張しました。しかし普段ならば関わることでできない先輩方とお話をしてみても、自分の聞いたことのない話を聞いて自分の中で新たに始めてみたいことが増えました。

●阿部 駿佑(信州大学)

●先輩方と様々なお話をすることができ、自分の将来について考える良い機会になりました。楽しいひとときを過ごすことができました。この同窓会は私にとって貴重な体験になりました。

●栗生 恭輔(横浜国立大学)

●古高の先輩方から貴重なお話をたくさん聞かせていただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。

●ただ、20〜40代くらいの方からお話を聞きたかったため、その年代の方々が少ないのは少し残念でした。

●白鳥 喬太郎(東京外国語大学)

●同窓会において「縦」の繋がりを強めるために、このような機会には非常に有意義で重要なものであります。諸先輩方のお話しはどれも豊富な経験に基づいておられ、興味深くてなるものではないかと、時間が足りない程でした。

●失礼を承知で、一つ思ったところを申し上げると、もう少し先輩方がどのようなお人か(例えば、職業など)がわかることができる工夫があると、学生側からも積極的に先輩方に話し掛けたことのできるのではないかと思っています。また、このような機会があれば是非お声がけ頂ければ幸いです。

●田中 草太(慶應義塾大学)

●大先輩方から学生生活に関して就職に関して人生に関して様々な視点からお話を頂き大変勉強になりました。

●また、卒業以来会っていなかった先輩や友人達の近況を聞くよい機会にもなりました。今回は現役世代の先輩のお話も聞くことができれば更に嬉しいですね。

●早坂 幸太郎(一橋大学)

●普段会うことのない古高の大先輩方とお話出来るととても有意義な時間を過ごせました。30〜40代の先輩方の世代の方々とお話できたより良かったかなと思います。また何かしら同窓会行事がございましたら、参加させて頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

●心よりご冥福をお祈りいたします

渡辺 三男氏 (昭18年卒) 元在京同窓会幹事 平成24年8月15日

中島 五郎氏 (昭29年卒) 平成23年12月9日

佐藤 忠良氏 (昭30年卒) 平成24年6月26日

大内 邦夫氏 (昭32年卒) 平成22年8月23日

●同窓会史上初の女子同窓生総会参加と、会報発行50号のダブル記念として、これまでの紙面の顔(1面)を変えてみました。男子校として育った皆様は1面の記事・写真をご覧になり、「共学」を実感されたかと思えます。お蔭でゲストの娘も、違和感なく懇親会に出られました。(首根)

編集後記

●白鳥 喬太郎(東京外国語大学)

●同窓会において「縦」の繋がりを強めるために、このような機会には非常に有意義で重要なものであります。諸先輩方のお話しはどれも豊富な経験に基づいておられ、興味深くてなるものではないかと、時間が足りない程でした。

●失礼を承知で、一つ思ったところを申し上げると、もう少し先輩方がどのようなお人か(例えば、職業など)がわかることができる工夫があると、学生側からも積極的に先輩方に話し掛けたことのできるのではないかと思っています。また、このような機会があれば是非お声がけ頂ければ幸いです。

●田中 草太(慶應義塾大学)

●大先輩方から学生生活に関して就職に関して人生に関して様々な視点からお話を頂き大変勉強になりました。

●また、卒業以来会っていなかった先輩や友人達の近況を聞くよい機会にもなりました。今回は現役世代の先輩のお話も聞くことができれば更に嬉しいですね。

●早坂 幸太郎(一橋大学)

●普段会うことのない古高の大先輩方とお話出来るととても有意義な時間を過ごせました。30〜40代の先輩方の世代の方々とお話できたより良かったかなと思います。また何かしら同窓会行事がございましたら、参加させて頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。